もしも、いなかったら…

私たちの知らないところで未来に多くの影響を与え続ける塙保己一。その存在がこれまでに遺したものは、歴史上に、そして現代を生きるわれわれにまで、大きな影響を与えています。

世界的な偉人で、塙保己一を目標としていたヘレン・ケラーは言いました。「塙保己一先生の名前は、水の流れのように後世に伝えられていくに違いありません」。

とはいっても、塙保己一が亡くなって195年が経過。今を生きる私たちにとって遥か遠い過去の人。しかし、現在も郷土の偉人として色褪せることのない存在であることに違いありません。それはなぜでしょうか。

その影には、熱い想いを持つ人たちがいるのです。「塙保己一の精神を広めたい」「その思いを受け継いでもらいたい」「その存在を人生の糧としてもらいたい」そういった熱い思いを持った人たちが、塙保己一を広めていく活動を続けているのです。

小笠原諸島が日本の領土ではなくなっていた？

東京から南に1,000km離れた太平洋に浮かぶ約30の島々からなる小笠原諸島。現在、東京都小笠原村として、日本の領土となっています。小笠原諸島と塙保己一。一見関係がなさそうですが、実は、塙保己一が設立した「和学講談所」が、この小笠原諸島の領土問題に大きな影響を与えたのです。

塙保己一が亡くなって40年もの歳月が経った1861年。アメリカ、イギリス、ロシアなどとの間に小笠原諸島の帰属問題が持ち上がりました。幕府は、和学講談所の後継者である塙保己一の息子・塙次郎に、小笠原諸島に関する質問状を送りました。塙次郎は、小笠原諸島が日本の領土であることを証明する歴史資料を即座に提供しました。その迅速な対応により、小笠原諸島が日本の領土であることが国際的に認められました。これは、日本初の国学専門の教育・研究機関である和学講談所があったからと言っても過言ではありません。

原稿用紙は20×20文字ではなかった？

みなさんも1度は400字詰めの原稿用紙で、作文やレポートを書いたことがあるかと思います。その縦20文字、横20行の原稿用紙の起源と言われているのが、塙保己一が編さんした「群書類従」の版木なのです。

当時書物は、限られた人のところにしかなく、書き写しで伝えられたため内容が異なるものなどが多くありました。そこで塙保己一は、それらの書物を集め、補正し、分類、整理しました。それが群書類従です。

塙保己一は、その群書類従を多くの人が手にできるようにと、版木に彫り、印刷できるようにしました。その枚数はなんと17,224枚。両面刻であるため、約34,000ページ分になります。その版木が縦20文字、横10行の2段とされ、これが現代の原稿用紙の起源と言われています。塙保己一が編さんした群書類従の版木がなければ、一般的に使う原稿用紙の文字数は、400字ではなかったかもしれません。

日本初の女性医師の誕生は遅れていた？

塙保己一と並び、埼玉ゆかりの三偉人とされる荻野吟子。荻野吟子は、1851年に現在の熊谷市で生まれました。19歳のころ、自身が病気にかかり産婦人科で治療を受けたときに、女性ならではの気持ちを共感できる女性医師が必要だと痛感し、医師を目指すことを決意します。

しかし、当時は医師開業試験を受けることは女性には認められていませんでした。そこで荻野吟子を救ったのが、塙保己一がまとめた古代律令の解説書「令義解」でした。塙保己一が遺したその書物には、日本にもかつて女性医師のような者があったということが記されていました。そのおかげもあり、荻野吟子は開業試験を受けることができ、日本で最初の女性医師となりました。荻野吟子は、開業医として熱心に治療にあたったほか、女性の地位向上や衛生知識の普及にも大きく貢献しました。塙保己一が遺した「令義解」がなければ、日本の女性医師の誕生、そして女性の地位向上も遅れていたかもしれないのです。

熊谷市提供

その情熱を広めていきたい

本庄市長を会長、生涯学習課を事務局とし、平成27年度末時点で、個人会員516人・賛助会員40団体で構成される総検校塙保己一先生遺徳顕彰会。塙保己一の業績を後世に伝え、また、その精神を広めることを目的とし平成19年に設立されました。

顕彰会では、塙保己一の命日である9月12日に遺徳を偲び菊の献花を行う顕彰祭をはじめ、ビデオの放映や講演、版木の手刷り体験など、その偉業と想いをつなぐため、さまざまな活動を行っています。表紙に掲載している塙保己一の銅像も今年3月に、塙保己一没後195周年と本庄市合併10周年を記念して顕彰会で建立しました。

偉業を成し遂げ、後世に大きな影響を与え続ける郷土の偉人塙保己一。その存在をこれからも絶えることなくつなぐために何ができるだろうか―。その一端を担うのはみなさん一人ひとりです。あなたにもつなぐことができるはず。顕彰会は、みなさんのご加入をお待ちしています。

総検校塙保己一遺徳顕彰会

年会費

個人会員　一口　1,000円
賛助会員　一口　10,000円

受付場所

セルディ、生涯学習課（市役所4階）、児玉公民館（アスピアこだま内）

★総検校塙保己一先生遺徳顕彰会事務局（セルディ内）☎㉒8851

「昔は全国の小学校の教科書に載り、学校で塙保己一のことを正しく教えられていたようだ。今は子どもたちだけでなく、それを教える立場の大人も正しく理解している人が少ないと思う」そう話すのは塙保己一物語劇化実行委員会会長の竹並万吉さん。

教科書採択制の流れのなかで、薄れゆく郷土の偉人のすばらしさ。そこに危機感を覚え、「衣装や演出にコストがあまり掛からず、子どもから大人まで気軽に参加できる」と塙保己一の生涯を群読劇として行うことを3年前に決意しました。

同じ思いを持つ、仲間たちとともに準備委員会を結成。その後出演者を公募し、9歳～80歳の男女35人程のメンバーで日々練習を重ねています。

塙保己一の幼少期、辰之助役を演じる金屋小学校6年で児玉町保木野在住の渋谷航輝くんは「郷土の偉人に以前から親しみがあった。チームワークで成功させたい」と笑顔で話します。

「主役は子どもたち。子どもたちが劇に参加することで、思い出に残るとともに、塙保己一のことを正しく理解できる。大人になったときに、その理解が彼らの子どもに受け継がれる。多くの子どもに参加してもらい、また、見に来てもらいたい。きっといい経験になる」と竹並さん。来年は本庄市民文化会館で本庄地域の子どもたちを多く交えて開催する予定。また、その後は、児玉郡内・県・全国と広めていき、「最終目標は塙保己一を目標にしていたヘレン・ケラーの生家にある劇場」と今後の展望を話します。

市民手作りの群読劇。広めたいと思うその気持ちは、見る人にとっても、塙保己一のすばらしさを教えてくれるはずです。

▲塙保己一の生家が学校区にある金屋小学校での練習風景。子どもたちは和気あいあいとしながらも、真剣に元気よくセリフを読み上げた。

市民による

群読劇「塙保己一物語」

音楽と朗読で作り出す塙保己一の生涯。幼少期から亡くなるまでそのすべての物語が今ここに再現される。その栄光と苦難の人生をぜひ感じてください。

日時　11月20日㈰　午後2時開演

※午前10時からの通し稽古は小・中学生に無料開放します。

会場　セルディ（児玉文化会館）

入場料　1,000円

※チケットをお求めの人は、本庄インフォメーションセンター（本庄駅内）へ。

★本庄インフォメーションセンター

☎㉒1690